

SEVEN HILLS

The magazine for high net worth individuals

セブンヒルズ
世界を舞台に活躍する
資産家のための
マネー&カルチャー誌

11

NOVEMBER 2007 Vol.034



特集 シンガポール

楽園都市の未来形

ブルネイ、黄金色の理想郷

世界最高の学校選び II

ギャラリーでパーティーを!

SINGAPORE

Jasmine Audemars

ジャスミン・オーデマさん

オーデマ ピゲ会長

1875年以来、創業一族が経営に携わり、最も歴史の長いマニュファクチュールとして知られる機械式時計の雄、オーデマ ピゲ。エドワード・オーグュスト・ピゲとともに創設者として名を刻むジユル・ルイ・オーデマの4代目にあたるジャスミン・オーデマ会長がこの度来日し、スポーツや森林保護などさまざまなチャリティアクティビティに積極的な同社の姿勢とともに、長年ジャーナリストとして活躍したという、個人の経歴についてもお話をいただいた。

矢幡聰子／インタビュー 野地康之／写真

——先日、アメリカズカップでバレンシアに行つてきました。支援されていらっしゃるチームアーリングの優勝、おめでとうございます。

ありがとうございます。アーリングと出会ったのは2000年だったのですが、非常におもしろいプロジェクトをもつてるので、すぐに協賛することを決めたのです。そして今年は優勝！ チームの艇速は素晴らしい、最終戦は一秒差という僅差で、非常に見ごたえのある試合でした。

——森林についての財団をやっているとお聞きしております。これについてお話しただけますか

父の代である1992年に、オーデマ ピゲを代表するロイヤル オークコレクションの20周年を記念してオーデマ ピゲ財団が設立されました。森林保護に限らず、子供たちと一緒に植樹活動を行うなど環境保護の重要性を啓蒙する活動もしております。財団によって行われた活動は30以上と多岐にわたり、フランスでは嵐によつて広大な森林が破壊されたベルサイユ宮殿のグランドトリアノンパークの修復工事、山火事によつて荒廃したモナコの森林再生、日本では、宮崎の照葉樹林ネットワークとともに森林再生プロジェクトに参加させていただきました。

そこでは植物の種類が少ないので、多様性に満ちた種の共存に取り組んでいます。

——スイスの時計メーカーは数多くありますが、オーデマ ピゲの特徴はこのように積極的に触手を広げていく革新的な部分にあるのでしょうか。

そうですね。複雑時計の最高位に位置づけられながらも、私たちは少し「いかれて」いるのが特徴なのかもしれません(笑)。受け継がれてきた時計技術とともに、スポーツ、文化振興へのチャリティアクティビティも何年も前から積極的に

行われてきました。まさに伝統と革新。結果、見識を広めることもでき、私たちも楽しんでいます。



ロイヤルオーク オフショア Ginza7 限定モデル
Royal Oak offshore Ginza 7 Limited Edition

——それは素晴らしいですね。長い間、オーデマ家とピゲ家が経営を守ってきましたが、受け継がれてきた伝統の中で、このようなチャリティ精神も含め、最も尊重された経営哲学は何だったのでしょうか。

オーデマピゲのロゴに1875年以来、マスターの文字が施されています。技術面、デザイン面においても、この言葉に恥じぬような仕事をしていくことでしよう。代々、会社は困難を乗り越えてきました。戦時中は作業人が2、3人しかいない時期もあったのです。その辛酸を舐めているからでしょう、父はよく「自

分が成功したと決して思ってはならない」と口にしていました。「運命はいつも暗転するか分からないのだから」と。ですので、私どもはビジネス展開を非常に慎重に行ってきました。必ずゆっくり、着実にステップを踏んでいくというやり方をいまだに通しています。

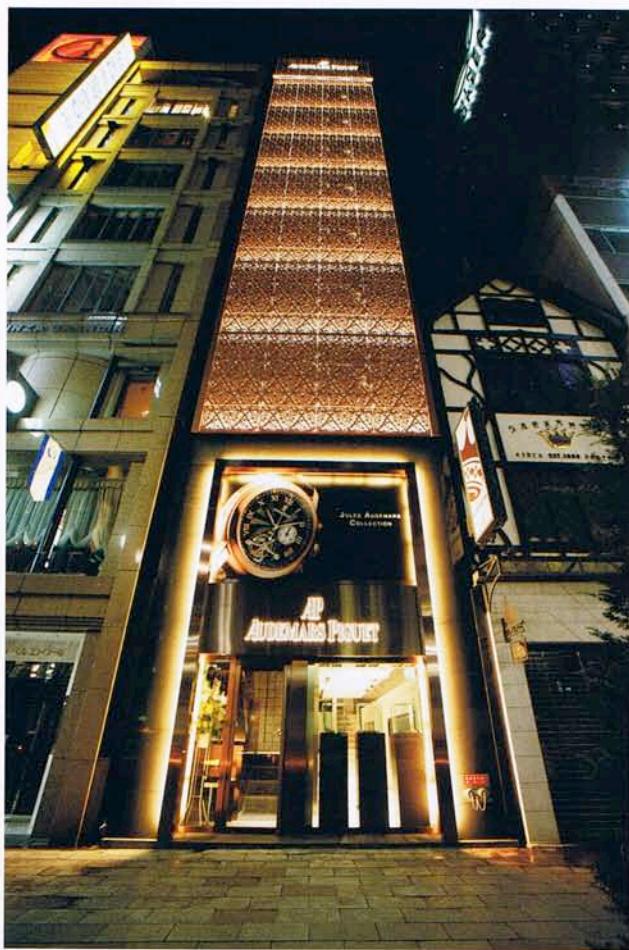
——伝統ある時計技術は職人の方へ受け継がれていっているのでしょうか。

スイスには時計職人の養成学校があるのですが、定員一杯だそうです。昨今、特に若い世代の時計つくりに関する興味は非常に高くなっています。オーデマピゲの工場内にも自社経営の

時計学校があり、現在は8人の職人見習いが学んでいます。彼らは世界の頂点にあるスイスの、しかもごく限られた一部の者が携われる時計つくりに非常に誇りを持ち、取り組んでいます。このよう若手の育成に関しては常に真剣に将来を考えています。

——ご自身は会社の前にジャーナリストとして活躍されていましたが、どういった経緯でこのファミリービジネスに参加することになったのでしょうか。

私が前職を希望したのは、世界の仕組みがどのようにしてできているのか、私の専門分野は経済と外交でしたが、ジャ



今年7月、銀座7丁目にオープンした旗艦店「オーデマピゲ ブティック銀座」

Interview *Celebrity*

——世界中の文化と一緒に仕事ができる
という点では、ジャーナリズムと共通しているのですね。オーデマ・ピゲは、アジアのシェアが45%ということですが、新興諸国のシェアの伸び率はいかがでしょうか。

新興国に関しては、ご存知のとおり進出に多額の投資がかかります。例えば現在、多くの企業が中国へ進出していますが、実際の利益を上げられているのはほ

んでもあると思ってるので、私たちは慎重に展開をしていく予定です。

——そういった視点から見ると、日本は安定した大きな市場をお考えなのでしょうか。このように銀座の一等地にタワーをつくられるのは非常に大きな投資といふ印象を受けます。

その通りです。文化意識の高い日本に、オーデマ・ピゲの哲学は美しく共鳴する

——オーデマ・ピゲの日本でのますますの発展をお祈りします。本日はありがとうございました。

——ナリストという職業でなら学ぶことができるのではないかと思ったのです。もちろん、タフでないと務まりませんが、毎日が異なり、同じルーティーンが一度としてないのは、大変希なことだと思います。最後の10年は編集長を務め、在職中は一瞬一瞬を本当に楽しみました。しかしジャーナリズムはある種、いろいろな感覚が麻痺してしまう職業であると思っています。いつかはやめなければなりません。そして24年目にその時を感じたのです。1992年に私の父が会長職を辞し、いいタイミングだと思いました。この選択に私はとても満足をしています。分野は異なるのですが、素晴らしいのは、世界中、旅をすることができ、世界中の文化と一緒に仕事ができるということ。日本、中国、アメリカ、フランス、イタリア……。“時計”という媒介を通して、本当に多くの発見がありました。そこが仕事の中で一番おもしろいところです。

——ナリストという職業でなら学ぶことができるのではないかと思ったのです。もちろん、タフでないと務まりませんが、毎日が異なり、同じルーティーンが一度としてないのは、大変希なことだと思います。最後の10年は編集長を務め、在職中は一瞬一瞬を本当に楽しみました。しかしジャーナリズムはある種、いろいろな感覚が麻痺してしまう職業であると思っています。いつかはやめなければなりません。そして24年目にその時を感じたのです。1992年に私の父が会長職を辞し、いいタイミングだと思いました。この選択に私はとても満足をしています。分野は異なるのですが、素晴らしいのは、世界中、旅をすることができ、世界中の文化と一緒に仕事ができるということ。日本、中国、アメリカ、フランス、イタリア……。“時計”という媒介を通して、本当に多くの発見がありました。そこが仕事の中で一番おもしろいところです。



矢幡 聰子 やはた・さとこ

CORE SLTD.代表取締役。聖心女子学院卒業後、スイス、フランスへ留学。欧州国連本部、小谷正一事務所を経てCORE SLTD.を設立。主な仕事は、国際文化交流事業の企画運営。PRコンサルタント、衛星テレビのプロデューサー、エッセイストとしても活躍。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)国内委員会理事

——オーデマ・ピゲの日本でのますますの発展をお祈りします。本日はありがとうございました。

——ナリストという職業でなら学ぶことができるのではないかと思ったのです。もちろん、タフでないと務まりませんが、毎日が異なり、同じルーティーンが一度としてないのは、大変希なことだと思います。最後の10年は編集長を務め、在職中は一瞬一瞬を本当に楽しみました。しかしジャーナリズムはある種、いろいろな感覚が麻痺してしまう職業であると思っています。いつかはやめなければなりません。そして24年目にその時を感じたのです。1992年に私の父が会長職を辞し、いいタイミングだと思いました。この選択に私はとても満足をしています。分野は異なるのですが、素晴らしいのは、世界中、旅をすることができ、世界中の文化と一緒に仕事ができるということ。日本、中国、アメリカ、フランス、イタリア……。“時計”という媒介を通して、本当に多くの発見がありました。そこが仕事の中で一番おもしろいところです。

——オーデマ・ピゲの日本でのますますの発展をお祈りします。本日はありがとうございました。

——ナリストという職業でなら学ぶことができるのではないかと思ったのです。もちろん、タフでないと務まりませんが、毎日が異なり、同じルーティーンが一度としてないのは、大変希なことだと思います。最後の10年は編集長を務め、在職中は一瞬一瞬を本当に楽しみました。しかしジャーナリズムはある種、いろいろな感覚が麻痺してしまう職業であると思っています。いつかはやめなければなりません。そして24年目にその時を感じたのです。1992年に私の父が会長職を辞し、いいタイミングだと思いました。この選択に私はとても満足をしています。分野は異なるのですが、素晴らしいのは、世界中、旅をすることができ、世界中の文化と一緒に仕事ができるということ。日本、中国、アメリカ、フランス、イタリア……。“時計”という媒介を通して、本当に多くの発見がありました。そこが仕事の中で一番おもしろいところです。

Interview

by Satoko Yahata



今年8月末、雑誌フォーブスによるシンガポールの億万長者トップ40人の発表が行われた。グッド・ウッド・パークホテルを売却したコー・ファミリー(Khoo family)を抜いてトップの座に着いたのは、ファー・イースト・オーガニゼーション

の拠点としての評価を改めて裏付けるものとなつた。

最有力者であるNG氏の不動産ビジネスは子息のRobert Ng 氏が姉妹会社SINO Group のCEOとして香港をカバーし、もう一人の子息、Philip Ng 氏がシンガポールのCEOとして君

世界の貿易港からカルチャー・ハブへ

Mr. PHILIP NG,
FAR EAST ORGANIZATION / CEO

—近年の変化にもまた目覚しいものがありますね。

銀行がシンガポールに設置され、

—日本の読者へメッセージを

光客を2倍近く、年間1700万人に増やす計画を発表しました。ショッピングやレストラン、観光業なども大事なポイントで、我々のオフィスビルやホテル、サービス・アパートメントなどの事業はこれらすべてのマーケット需要を把握した上で開発にとりかかっています。

われわれは世界中を旅行していろいろなコンセプトや新しいアイデアを学んでいます。それはマーケットの相違点を見出しきつかけにもなり、シンガポールをどういう風に面白くてユニークでダイナミックにアレンジできるか、我々の多様性をよりクリエイティブに美的に創り上げていくのが我々の哲学なのです。

—現在のシンガポールマーケットのアドバンテージを、あなたはどのようにご覧になつていますか？

臨する。シンガポールのトップビジネスリーダーであるNG氏に聞いた。

(FEO) を率いる不動産王、Mr. Ng Teng Fong。資産はUS\$ 67億ドルで、2位とはUS\$ 10億ドルほどリードして堂々の1位に輝いた。シンガポールの億万長者リストの1位から10位までこの結果は、アジアのビジネス

日本人は洗練されていて、行儀作法もよく、また日本は世界で一番清潔な国だと思っていました。シンガポールはこういう点を学ぶべきです。そうですね、日本の読者にはぜひ今のシンガ

ポールの変貌を見に来ていただきたいと思います。

—現在のシンガポールマーケットのアドバンテージを、あなたはどのようにご覧になつていますか？

1819年、英國のラッフルズ卿が貿易拠点を築いたことから始まつたシンガポールの歴史は、現在の繁栄を見る限り、素晴らしい成功していると思います。小さな貿易港から大きなトレーディングセンターに生まれ変わり、ニューヨーク、アムステルダムを抜いて、香港、上海、シンガポールが世界の三大貿易港になりました。これも中国とのトレーディングのおかげですが…。

—日本の読者へメッセージをいただけますか。

日本人は洗練されていて、行儀作法もよく、また日本は世界で一番清潔な国だと思っていました。シンガポールはこういう点を学ぶべきです。そうですね、日本の読者にはぜひ今のシンガ

Interview

by Satoko Yahata



2

国内に300社以上あるといわれている外資系銀行の中で、ソシエテ・ジェネラルは、欧州の英知とアジアのオポチュニティを融合させることに力を注ぐ、ユニークなパトロン的存在でもある。そのソシエテ・ジェネラル・プライベート・バンキングのCEOであるピエール・ベア一氏はヨーロッパからアジアにいたるグローバル・ウェルス・マネジメントのオペレーションと東南アジアのマーケティングを統括するもつとも忙しいプライベートバンクの代表である。

—最近、日本人投資家が増えていると伺いましたがいかがですか。

シンガポールは香港と並ぶアジアの代表的な金融センターです。近年の著しい経済成長とグローバル化でシンガポールは大変活気づいており、日本人のお客様もずいぶん増えました。この国は人が生きる上でインフラの整備を最重視したこと、空港や港湾をはじめとして非常に効率的で住みやすく、便利で安全な環境があります。そのため不動産や事業へ投資される日本人を含むアジアの方の問い合わせが多いですね。弊社では昨年来、高級マンションだけに投資をするファンも発行しました。

そういう方々のためにこの国の高級マンションだけに投資をするファンでいるのです。

—何かユニークで特別なファンがあるそうですね。
The Ultimate Wine Fundというワインファンドシリーズです。「高級ワインを保有することで資産を増やす」という資産運用法は、ヨーロッパでは数百年前からありました。ワインコレクターに大変人気の商品で、フランスが誇るプレミア付、ヴィンテージワインなど。しかもご存知ワイン評論家のロバート・ピントが高く、専門家が確実に価値を生むと判断したワインだけに分散投資をしているのです。ワインのスペシャリストによつてふるいにかけ、管理とセキュリティの行き届いた「お客様だけのワインセラー」を保有していただくわけです。運用報告は毎四半期にお届けしますし、価格が上昇すれば売買のアドバイスをし、またご自身で、あるいは大事なビジネスディナーで特別なワインが必要なときなど、ロンドン、東京など場所を問わずいつでも個別のボトルを発送いたします。中でもプリムール(初物)に投資をし、ファンとしての価格も算出し、一定期間後にポートフォリオを現金化するか現物で保有し続けるかで選択頂くスキームなどは当行独

—何かユニークで特別なファンがあるそうですね。
The Ultimate Wine Fundというワインファンドシリーズです。「高級ワインを保有することで資産を増やす」という資産運用法は、ヨーロッパでは数百年前からありました。ワインコレクターに大変人気の商品で、フランスが誇るプレミア付、ヴィンテージワインなど。しかもご存知ワイン評論家のロバート・ピントが高く、専門家が確実に価値を生むと判断したワインだけに分散投資をしているのです。ワインのスペシャリストによつてふるいにかけ、管理とセキュリティの行き届いた「お客様だけのワインセラー」を保有していただくわけです。運用報告は毎四半期にお届けしますし、価格が上昇すれば売買のアドバイスをし、またご自身で、あるいは大事なビジネスディナーで特別なワインが必要なときなど、ロンドン、東京など場所を問わずいつでも個別のボトルを発送いたします。中でもプリムール(初物)に投資をし、ファンとしての価格も算出し、一定期間後にポートフォリオを現金化するか現物で保有し続けるかで選択頂くスキームなどは当行独

自の企画で、大変成功している金融商品です。また特に日本のお客様にはフランスのシャトーの購入のお手伝いもしています。